

## 第5章 計画の実現に向けて

1. 共創・協創によるまちづくりの推進
2. 効率的な財政運営
3. 計画の進行管理

## 第5章 計画の実現に向けて

### 1. 共創・協創によるまちづくりの推進

- 人口減少・少子高齢化社会においても持続可能なまちとするためには、多様な主体が対等な立場で、共に力を合わせる必要があります。
- 村民やボランティア・市民活動団体、企業・事業者、行政等がつながり、自らの智恵や能力を出し合い、共創・協創することで、しなやかで活力あるまちづくりを推進していきます。
- 推進にあたっては、行政による支援体制の強化・充実のほか、村が実施する施策において、共創・協創の視点による事業展開や、住民主体の活動をサポート・コーディネートできる人づくりにも努めていきます。

### 2. 効率的な財政運営

- 公共施設の整備や維持管理にあたり、国や茨城県の補助制度の積極的な活用の他、PFIなどによる民間資金や技術の活用による効率的な都市整備の方法についても検討を進めていきます。

### 3. 計画の進行管理

- 東海村都市計画マスタープランは、法制度の改正や社会・経済情勢の変化、住民の意向などを踏まえて、おおむね5年を目途に見直しを行う他、必要に応じて適宜見直しを行います。
- 今後のまちづくりは、本計画の方針に基づき、各種の制度や事業を活用しながら進めていくこととなりますが、本計画の進捗状況は定期的な評価・検証や庁内関係課と連携・調整を行い、PDCAサイクルによる継続的な改善を図ります。





黒松



スカシユリ



メジロ



東 海 村